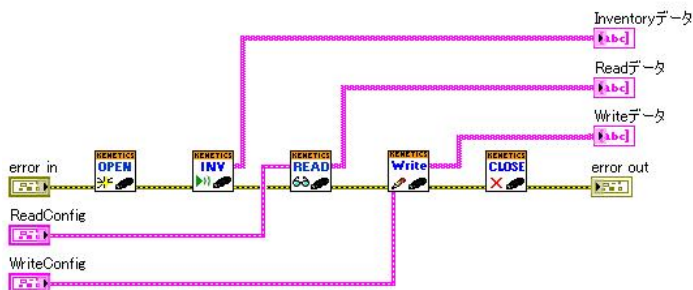


RFID 開発ツールキット (LabVIEW)

- Kenetics 製 [Volare UHF - USB] リーダーライター対応 -



Kenetics製UHF帯RFIDリーダーライター [Volare UHF-USB] 対応 RFID開発ツールキット (LabVIEW)

- LabVIEW API サポート
- 必要なコマンドが 1 アイコンで設定可能
- Windows XP/Vista 対応
- RFID タグの複数読み込み可能
- USB 接続型リーダーライター使用(バスパワー)
- ISO 18000 - 6 Type C 準拠



大西電気株式会社

概要

[RFID 開発ツールキット]は Kenetics 製の[UHF-USB]リーダーライターに対応した LabVIEW 言語のツールキットです。このキットでは、LabVIEW 開発環境で[UHF-USB]リーダーライターを使用して、UHF 帯 RFID と通信することが可能です。

ユーザーは開発ツールキットに用意されたアイコン(VI)を利用することで簡単にプログラムを作成することができます。

開発ツールキット<LabVIEW>を使用するメリット

- 短時間でプログラムを作成可能
- 開発・実験にかかる時間の短縮
- 短期間で学習可能 (複雑なマシンレベルのプログラミングや組込ハードウェア構成の知識がなくても、アプリケーションを開発できます)
- 試作段階でシミュレーション可能 短時間で確認・デバッグ
- EXE 形式にコンパイルして、LabVIEW がインストールされていない環境でも実行可能

● プログラム作成フロー

- 連続 Inventory 機能 -

プログラム開発環境
Kenetics 製リーダーライター
[Volare UHF-USB]
LabVIEW 開発ソフト



1



開発ツールキットより選択



2



LabVIEW 関数を選択してループ・待機を設定
While ループ 待機

ドラック & ドロップでプログラム

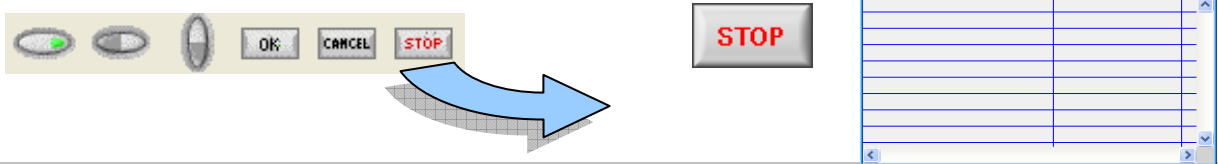


3

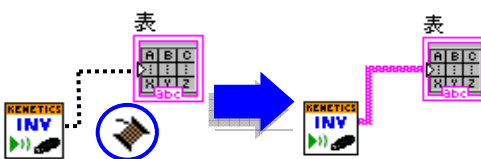


表示・操作画面を設定

STOP ボタン 表 表

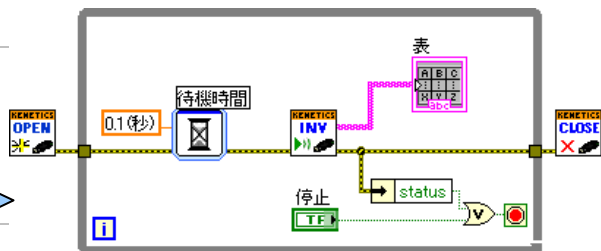


4



マウスポインタで関数を繋ぐ

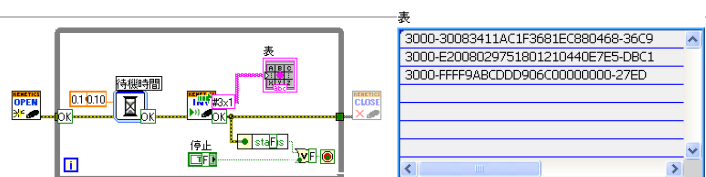
プログラム完成
関数・表示器を線で繋ぐ



5

プログラム実行

RFID の ID データが表に表示される



開発ツールキット一覧

RFID 開発ツールキット-Kenetics 製の[UHF-USB]対応-で操作する VI 関数の一覧を以下に記載する



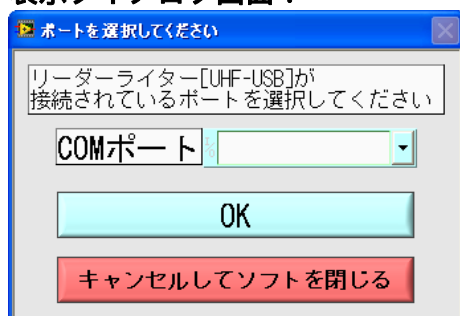
● Kenetics_RW_Open.vi

リーダーライターのポートを接続します。
ポートを選択するダイアログが表示されます。



	端子名
入力	エラー入力：LabVIEW の標準エラークラスタを入力します。入力されるエラーステータスが ON の場合この関数の処理をキャンセルします。
出力	COMポート：接続した COMポート名を出力します。 エラー出力：関数内のエラー情報を LabVIEW の標準エラークラスタを出力します。

表示ダイアログ画面：



● Kenetics_RW_Inventory.vi

Inventory コマンドを実行します。



端子名	
入力	エラー入力 : LabVIEW の標準エラークラスタを入力します。入力されるエラーステータスが ON の場合この関数の処理をキャンセルします。
出力	Inventory データ : Inventory コマンドを実行して、取得した RFID コードを 2 次元の文字配列で出力します。 1 列目 : ID データ エラー出力 : 関数内のエラー情報を LabVIEW の標準エラークラスタを出力します。

● Kenetics_RW_Read.vi

Read コマンドを実行します。

コマンドは[ReadConfig]で設定します。



端子名	
入力	ReadConfig : 実行する Read コマンドを設定します。 1. Bank : Read するメモリ領域を以下の項目より設定します。 1- : Bank00 RESERVED 1- : Bank01 EPC 1- : Bank10 TID 1- : Bank11 USER 2. アドレス : Read するメモリの開始アドレスを指定します。(16 進数入力) 3. ブロック数 : Read するブロック数を指定します。最大 07 までが設定可能です。 エラー入力 : LabVIEW の標準エラークラスタを入力します。入力されるエラーステータスが ON の場合この関数の処理をキャンセルします。
出力	Read データ : Read コマンドを実行して、取得した RFID コードを 2 次元の文字配列で出力します。 1 列目 : Read した RFID の ID データを表示します。 2 列目 : RFID メモリのコードを表示します。 取得に失敗した場合、「Read エラー」と表示されます。 エラー出力 : 関数内のエラー情報を LabVIEW の標準エラークラスタを出力します。

● Kenetics_RW_Write.vi

Write コマンドを実行します。
 コマンドは[WriteConfig]で設定します。



	端子名
入力	WriteConfig : 実行する Write コマンドを設定します。 1. Bank : Write するメモリ領域を以下の項目より設定します。 1- : Bank00 RESERVED 1- : Bank01 EPC 1- : Bank10 TID 1- : Bank11 USER 2. アドレス : Write するメモリの開始アドレスを指定します。(16 進数入力) 3. Write データ : Write するコードを入力します。最大 16 文字(16 進で 8 ブロック)が入力可能です。
	エラー入力 : LabVIEW の標準エラークラスタを入力します。入力されるエラーステータスが ON の場合この関数の処理をキャンセルします。
出力	Write データ : Write コマンドを実行して、Write した RFID の ID データと Write の成否を 2 次元の文字配列で出力します。 1 列目 : Write した RFID の ID データを表示します。 2 列目 : Write が成功した場合「Write 成功」を表示します。 Write が成功した場合「Write 失敗」を表示します。
	エラー出力 : 関数内のエラー情報を LabVIEW の標準エラークラスタを出力します

● Kenetics_RW_Close.vi

現在接続されているリーダーライターのポートを切断します。



	端子名
入力	エラー入力 : LabVIEW の標準エラークラスタを入力します。入力されるエラーステータスが ON の場合この関数の処理をキャンセルします。
出力	エラー出力 : 関数内のエラー情報を LabVIEW の標準エラークラスタを出力します。

サポート

保証規定

納入後、6ヶ月以内で明らかに弊社の責任による不具合は無償で早急に修正いたします。
保証期間を延長する場合は有償となります。

保障形式

標準(無償) : 6ヶ月

契約(有償) : 1年および3年

保証範囲

保障期間内にシステムに不具合が発生した場合は基本的に無償で対応いたします。
但し、以下の場合に生じた故障については有償となります。

- 1) 取り扱い上の誤り、過失
- 2) 天災・火災などの不可抗力によるもの
- 3) 通常使用を明らかに超える苛酷な使用または長期使用による故障の場合

テクニカルサポート

ペリテックのシステムエンジニアから eメールまたは電話にてサポートを受けられます。



E-mail : info@rfidtest.jp

T E L : 027 - 328 - 6970

F A X : 027 - 330 - 7218

<http://www.peritec.co.jp>

受付時間 : 9:00 ~ 17:45 月 ~ 金曜日(祝日、弊社休業日を除く)

システムインテグレーション

RFID の開発において、時間の制約や社内の技術リソースが不足している場合などは、ペリテックのシステムインテグレーションをご利用することをお勧めします。

ペリテックの RFID システムインテグレーションは、ソフトウェアの開発にとどまらず、弊社の RFID テスターを使用したハードウェアの検証、RFID に精通した共催パートナーとの連携により、短期間で最適なインテグレーションを提供しています。詳しくは、ペリテックまでお電話いただくか、
<http://rfidtest.jp/contact> よりご連絡ください。

このカタログの記載内容は、2009年07月28日現在のものです。
記載事項はお断りなしに変更することがあります。